

未来保証型研究開発ラボへの 第一歩を踏み出す5つのヒント



あらゆる業界でデジタルトランスフォーメーションへの取り組みが増えているにもかかわらず、70%は目標を達成できていません。中核となるイノベーションセンターが研究開発ラボであるサイエンスドリブンの組織にとって、成功はさらに手の届かないものになる可能性があります。未来のデジタルラボを構築するには、テクノロジーで何ができるのか、科学研究がいかに複雑かということ深く理解することが重要です。しかし、多くの場合、こうした一連の知識はサイロ化され、あるいは組織内に存在しておらず、デジタル変革された未来保証型のラボの実現に向けた問題を悪化させています。

ここでは、ラボのデジタルトランスフォーメーションへの取り組みを始めるための5つのヒントを紹介します。

1. テクノロジーではなく、ビジネスバリューを優先する

多くの場合、テクノロジー主導のプロジェクトは、実際の事業の投資利益率から外れたものです。機械学習やAIなどの新しいテクノロジーの将来性に期待を膨らませ、その投資から得られる最終価値を理解せずにラボに導入することは簡単です。成功する組織は、最初に達成すべきビジネス目標を特定し、次に研究開発特有のニーズや課題に対応したデジタルソリューションを構築します。

2. データ管理だけでなく、もっと大きな視点で考える

科学的データは長期的なイノベーションの鍵を握っていますが、ほとんどの取り組みやツールはデータの収集と管理のみに重点を置いています。データを整理し整合を取るという重要なニーズは確かに存在しますが、保存されても使用されないデータには価値がありません。科学者がデータを活用して新たなディスカバリーを行い、イノベーションを加速させることができるような専用のデジタルソリューションにこそ真の価値があります。それにより科学者は、直ちに解析できるデータを効率的かつ、さらに効果的に利用して、より優れた賢明な意思決定を迅速に行うことができるようになるのです。

3. 現在のワークフローと非効率性を評価する

未来保証型のデジタルラボは科学的な創造性と生産性に最適化されています。研究者は複雑なワークフローの問題点ばかりを意識していると、時間を失うだけでなく科学的な可能性も見失ってしまいます。ラボの管理者は自問すべきです。「現在の制約が取り払われ、最新の計算能力を使うとこのプロセスはどのようになるのか」。ニーズの変化に常に適応できる、カスタマイズされ最適化されたワークフローは、革新的なラボに不可欠です。

4. デジタルスキルのギャップを特定する

最も効果的なデジタルトランスフォーメーションは包括的なアプローチを取り、テクノロジーだけでなくそれに関わる人々への投資も含みます。しかし、多くの組織では、その分野の専門知識と、データドリブンのプロジェクトの構想、管理、導入に必要なデジタルスキルを適切に兼ね備えた研究開発スタッフが不足しています。研究者のデジタル能力を構築することで、科学について深く考え、ラボの変化で何ができるかを考えるようになります。

5. 価値主導のプロジェクトを今すぐ開始する

サイエンスドリブンの企業が市場で競争力を維持するためには、自動化され最適化されたラボが不可欠です。初めに、ビジネスにもたらされる潜在的な価値に基づいて、成果が具体的に予見できるプロジェクトを選択します。小規模なプロジェクトであっても、能力を構築して賛同を得るのに役立つ、実証できる価値を生み出すのであれば、デジタルプロジェクトに継続して投資することを正当化することができます。

Enthought は、20年以上にわたり、材料科学・化学、ライフサイエンス、半導体、エネルギー業界で先頭を走る企業から選ばれてきた、デジタルトランスフォーメーションのパートナーです。
研究開発ラボのデジタルトランスフォーメーションを始める方法について、今すぐ[お問い合わせください。](#)

